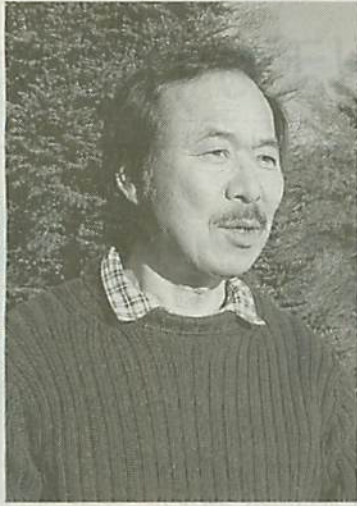


# 異色の組み合わせで開発

## アニマルパスウェイ

ヤマネやリスなどを交通事故や生息域の分断から救う「アニマルパスウェイ」(動物の通り道)と呼ばれる小動物用の歩道橋がある。ヤマネの博物館「キープ協会やまねミュージアム」や大手ゼネコンなどからなる研究会にNTT東日本が参入、異色の組み合わせによる研究開発が進んでいる。

【浜田勇】



パスウェイへの思いを語る湊秋作さん

## 追跡 発掘

### ヤマネ博物館、ゼネコンが研究会発足 生息域分断に危機感 改修や設置作業にNTTも参入

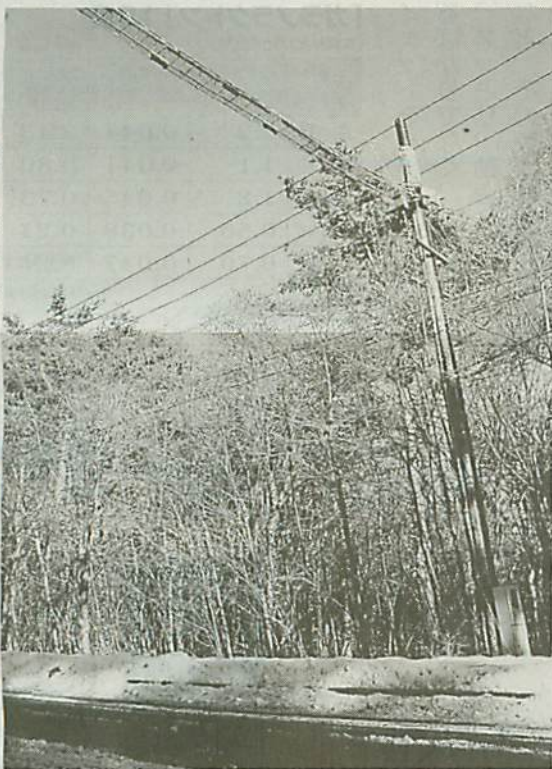
樹上生物保護に

キープ協会やまねミュージアム館長の湊秋作さん(56)は96年冬、八ヶ岳南麓の清里高原有料道路(現在は無料)の建設に伴う環境アセスメント調査を行っていた森で、木々が切られ、ヤマネが冬眠している地中をアルドラーがかき回す光景を目の当たりにした。ヤマネは環境省の

レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されている希少種でもある。木を運って移動するヤマネの生息域が分断される―危機感を抱いた湊さんは、アニマルパスウェイをかけることを思いつき、道路を建設した県道路公社と粘り強く交渉した。その結果、公社は98年、

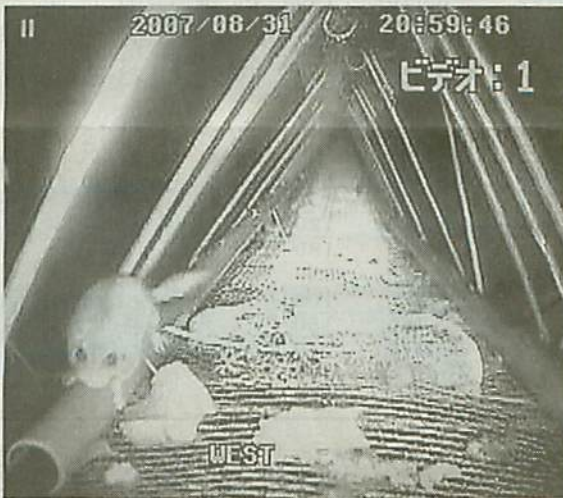
2000万円を投じ、道路をまたぐ道路標識を兼ねる形で、ヤマネが通れるよう金網を張りやすいうように木の皮を巻き付け、タカなどの天敵から守るため、三角形の鉄製フレームに屋根を取り付けた長さ約14メートルのトンネルを支柱の間に渡した。費用は市が負担したが、材料費、設置費合わせて200万円に抑えた。

しかし、一つでは足りない。湊さんはさらに04年1月、日本経団連自然保護協議会の会員の清水建設や大成建設などに掛け合せて「アニマルパスウェイ研究会」を発足させた。リスやヤマネなど樹上動物の習性を研究した結果、07年7月に改



電柱から伸びるアニマルパスウェイ 北柱市大泉町西井出で

良型のパスウェイが清里高原の北柱市道に完成した。高さ約9メートルの支柱2本に、動物が登りやすいように木の皮を巻き付け、タカなどの天敵から守るため、三角形の鉄製フレームに屋根を取り付けた長さ約14メートルのトンネルを支柱の間に渡した。費用は市が負担したが、材料費、設置費合わせて200万円に抑えた。



アニマルパスウェイ内を横断するヤマネ(左下)。アニマルパスウェイ研究会が設置したビデオカメラで撮影(同研究会提供)

設置から18日後にヤマネが通ったのが確認された。国際学会などで知ったドイツや英国の研究者や環境アセスメント会社から問い合わせが相次ぎ、08年5月には社団法人日本土木学会(東京都)の環境賞も受賞した。

この時、支柱には古い電柱を用いた。研究会はさらに技術に磨きをかけるため、今年1月、電柱設置や高所での作業にノウハウを持

つNTT東日本に協力を打診した。その結果、NTT東日本は電柱工事で使うバケット車を提供、5月下旬から、清水建設などと共に、パスウェイの改修作業をボランティアで行い始めた。また、今後、パスウェイを新設する際には支柱用の電柱を立てる時に協力する方針だ。

アニマルパスウェイに詳しい帯広畜産大の柳川久准教授(野生動物管理学)は「異業種がノウハウを出し合うのは有益。その結果、安価になれば全国に普及しやすくなる」と異色の「コラボレーション」を評価する。

鉄道の線路も生息域を分断する要因となっていることから、湊さんは今後、JRなど鉄道事業者にもパスウェイの設置について協力を求めていく考えだ。